



## 子ども室内遊戯施設「はれっぱ」

「晴れた日の原っぱで遊ぶ様子をイメージして考えた」という南幌小学校の児童の案が採用されました。



南幌町

# 子ども達の笑顔を育む交流拠点 子育て世代の移住促進を目指して

### 子育て世代の移住施策

南幌町では、「将来にわたり子どもたちと笑顔で暮らせるまちづくり」の実現を目指し、子育て支援策として、高校生まで医療費無料化、学校給食の主食（米・パン・麺）費用全額補助、高校生の通学費補助などの施策を実施しています。

住宅施策においても、中学生以下の子どもがいる世帯又は夫婦共に40歳未満の世帯を対象に最大200万円の住宅建築費を助成する「南幌町子育て世帯住宅建築費助成事業」や宅地価格の割引などの取組により、町外からの移住者が増加傾向にあります。

町は、この効果を持続させるとともに、子育て世代にとって魅力的なまちを目指し、町民の声をしっかりと反映する環境整備を進めてきました。

### 新たな子育て施策

子育てしやすい環境整備に向けて、実施したアンケート調査や子育て世代へのヒアリングにおいて、「遊び場や遊ぶ機会の充実」や「天気の良い日や冬場も遊べる室内の遊び場」を希望する声が多く挙がりました。他にも、小



▲子育て世代へのヒアリングの様子

中学生が友達と自由に集まる「居場所」を求める声や、移住者を含めた母親が気軽に集まり、子育ての悩みを共有するなど、繋がりをつくる場が必要という声も寄せられました。

こうした地域住民の声を形にするここと併せて、平成30年に近接する北広島市に日本ハムファイターズのポールパーク建設が決定したことや南幌町の市街地付近を経由する道央圏連絡道路が将来的に開通することで、人の流れが大きく変わることが予想されることなどから、札幌圏を中心に町外から多くの子育て世代を呼び込むことで交流を生み出す、子ども室内遊戯施設を整備することとしました。建設場所は、来町者に市街地の暮らしの様子を見てもらいたいという点から、市街地にある公園の中になりました。

南幌町は、札幌市と新千歳空港から車でそれぞれ約45分の場所に位置し、広大な平野をいかした農業が基幹産業です。

令和5年5月3日にオープンした子ども室内遊戯施設「はれっぱ」を紹介いたします。



地域の交流拠点

令和5年5月、町民待望の子ども室内遊戯施設がオープンしました。

施設名は、町内児童からの公募で「はれっば」と名付けられました。

「はれっば」は、遊戯エリアと休憩エリアから構成され、子どもから大人まで居心地良く過ごせる空間になっています。

休憩エリアのカフェスペースでは飲食等の利用がなくても自由に使用できるため、幅広い世代の方が利用する憩いの場となっています。

当初カフェスペースを設置する予定はありませんでしたが、カフェコーナーを希望する町民の声や、町内中学生からの学生の居場所がほしいという意見を踏まえて、カフェ店を設置しました。

「はれっば」が建設された公園全体のリニューアルが令和5年度中に完了する予定で、キッチンカースペースを含むイベント広場も完成します。イベント広場では、地域の団体や飲食店が出展することで、「はれっば」に遊びに来た人が町のことを知るきっかけとなり、町の魅力を知ってもらい、将来的に移住の検討に繋がることを期待しています。



▲南幌町キャラクター キャベッチくん



▲休憩エリアにはテーブルと椅子が備えられ、小中学生が放課後に集って宿題をするなど、居場所となっている。

●利用料金  
 町外利用者 300円  
 町内利用者 100円  
 保護者 無料※  
 ※子ども供の見守りをしてもらいたいという想いから無料

▲有料ゾーンの遊戯エリアは、乳幼児から小学生までを対象とした遊具やアスレチック、知育玩具が設置され、体いっぱい遊ぶことができる。遊びを通じて子どもの「好奇心、創造性を育む」ことや「運動能力の向上」に繋げることを目的としている。



「はれっば」に込められた想い

開館後約4か月で来館者数が10万人を突破し、町内外から注目が集まっている「はれっば」。町外から「はれっば」を目的に訪れた人が地元の商店や飲食店に立ち寄るなど、周遊も生まれています。

構想時から携わった前田主査に「はれっば」に込められた想いをお聞きしました。

「はれっば」をひとつのきっかけとして、幼い頃の楽しかった思い出が記憶として残り、大人になって一度町を出たとしても、その記憶と住みやすい環境に惹かれ、また南幌町に戻ってくる、そんな循環を作りたい」と想いを熱く語ってくれました。「はれっば」の整備にあたり、南幌町に生まれ育ったことを誇りに思ってもらいたいという想いから、地域住民と「10年後も子ども達という風景」というイメージを共有したといいます。

これからも移住定住のきっかけや、南幌町で暮らす子ども達が町に愛着を持つために、「はれっば」をいかしたまちづくりを展開していきます。

お話を伺った方

南幌町役場まちづくり課  
前田主査



# 『なのみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～



▲懇談に参加された皆さんと。黒松内町では、北限のブナ林をはじめとする優れた自然をいかし、都市との交流を図るまちづくりを進めている。

黒松内町  
後志編



なのみちカフェ

鈴木知事が、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様はその様子をお伝えします。

令和4年12月16日訪問

## 道の駅「くろまつない」(トワ・ヴェールII)編

今回まずご紹介するのは、「ブ

ナ北限の里」として知られる黒松内町にある、特産物展示販売施設の顔を併せ持つ、道の駅「くろまつない」(トワ・ヴェールII)です。

札幌・函館間を結ぶ国道5号線に位置し、道央自動車道黒松内JCTからも近く、「黒松内の玄関口」として、連日、町内外から訪れた多くの方々と賑わっています。町の特産物展示販売施設として

平成11年にオープンし、豊かな自然に育まれた牛乳をはじめとする町の農畜産物の新鮮な素材をいかしたチーズやアイスクリーム、ラム、ソーセージなどの販売に加えて、施設内で調理する道産食材を使った手づくりのパンやピザが特に人気で、休日になると行列ができるほどの賑わいを見せています。

また、町産「奈川そば」の知名度を高め、町を元気にしよう、町出身で札幌の高校生が授業の一環で考案した「奈川そば」を使用したガレット(そば粉のクレープのような料理)を用いたメニューを開発し、好評を博しています。

※トワ・ヴェールIIについて  
「トワ・ヴェール」はフランス語で「緑の屋根」、「エドゥール」は「2番目」を意味し、平成5年に先んじて町が整備・運営を始めた特産物手づくり加工センター「トワ・ヴェール」の製品の販路拡大を目的に整備されたことから、このネーミングが採用されました。

黒松内町では、国の天然記念物

や北海道遺産にも選定されている「北限のブナ林」を古くからシンボルとして掲げ、昭和62年に「ブナ北限の里づくり構想」が町民有志から提言され、都市と農村の交流を基本理念として、可能な限り

地域内の人材・資金を活用したまちづくりが進められてきました。道の駅での取組のほか、ブナ林を中心とした自然体験と地域の方々との交流を組み合わせたツアーや、ウオーキング、サイクリングなどゼロカーボンを意識した体験型観光プログラムの造成・PRにも精力的に取り組んでいます。

「有名な観光資源はないが、これからも特産品の開発やアドベンチャーーツーリズム商品の造成に力を入れていきたい」と鎌田町長は語ります。今後も自然・食・観光といった地域資源を活用したまちづくりが進められ、より一層多くの人々を惹きつけることが期待されます。



▲本格的な自家製パンやできたてのピザを提供。黒松内産や道内産の食材がふんだんに使用されている。

### 当日の知事の言葉から

町の農畜産物を活用した特産品開発の長年にわたるご努力により、地域でしか作れない商品を生みだしています。豊かな自然をいかした体験型観光を発信、提供する拠点として、道の駅が活用され、自然、食、観光が一体となって町の魅力を形作っていることを実感し、多くの刺激をいただきました。



▶懇談時の様子



なのみちカフェ(黒松内町編)の動画はこちらからご覧いただけます。  
(YouTubeチャンネル)



▲令和4年4月にオープン。施設名の「袋澗」は、ニシン漁の礎を築いた親方が石を積み上げて造成した「小さな港」の意味で、移住定住・仕事・交流の場として、小さな港のような役割を果たしてほしいという思いが込められている。移住定住に関する総合的なサポートのほか、町民同士の交流の場としても多くの方々に利用されている。

## 宗谷編



令和5年6月20日訪問

# 礼文町移住定住・人材交流拠点施設「袋澗」編

次に、礼文島の優れた地域資源を国内外に広く発信し、島への新しいひとの流れを創出する礼文町移住定住・人材交流拠点施設「袋澗（ふくらま）」についてご紹介します。

礼文町では、人口減少対策として、移住定住を推進するため、漁業や水耕栽培など島の就労体験を通じて島民との交流を図り、よりリアルな島での暮らしを体験できるふるさと体験道場「礼文番屋」整備や島への移住を検討されている方を対象とした「移住体験住宅」の整備など色々な島暮らしを体験できる取組を進めています。

さらなる島への新しい人の流れをつくるため、島の総合的な移住・定住の支援体制を図り、移住定住・仕事・交流などを目的とする様々な人々が集まる拠点として、「袋澗」は、町に寄贈された築数十年の商店を国の地方創生拠点整備交付金を活用して改修。令和4年4月に開設しました。

島の空き家情報や仕事紹介などの移住定住相談窓口やワーケーションなどに対応できるコワーキングスペース、シェアハウスなどの機能を有しています。

施設の運営は、町の元地域おこし協力隊の鈴木さんが、管理人として町から業務委託を受け、町の現協力隊員の下元さんとともに運営しています。

移住定住の相談窓口では、移住の決め手となる空き家や求人情報、仕事紹介のため、島の情報を細かくキャッチしながら、島全般の相談などの対応をしています。鈴木さんは、令和4年3月まで町の地域おこし協力隊として移住定住コーディネータをしており、町の移住定住ポータルサイトの更新を手掛けるなど、移住者視点で島の魅力の発信をしています。

移住を希望する方や島民の皆さんとの架け橋として、これからも多くの方に施設が活用されることを期待しています。



▲1階はコワーキングスペース。無料のフリースペースや有料の仕切りのあるプライベートスペース、モニター付きの会議等が可能なミーティングスペースを備え、フリーWi-Fiも利用可能。



▶施設の外観。商店だった建物を改修して使用。2階は地域おこし協力隊のシェアハウスとして利用。

## 当日の知事の言葉から

移住相談に来られるのは、礼文に行きたいという一歩を踏み出してくれた方です。島の仕事などの情報を人生の岐路にある人たちに届け、島に関心をもってもらおうという役割はとても大きいと思います。



なおみちカフェ（礼文町編）の動画はこちらからご覧いただけます。  
（YouTubeチャンネル）